

# 令和 7 年度地域公共交通確保維持改善事業 に関する事業評価について (フィーダー補助)

令和 8 年 1 月 2 3 日  
交通政策課

# 1 令和7年度地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

## ●事業評価の概要について

地域公共交通確保維持改善事業（国庫補助金）を活用した事業について、次年度又は将来の事業をより効果的・効率的に実施するために、事業の実施状況等を振り返り評価するもの。

評価の内容を福岡運輸支局へ報告する。

### 【フィーダー補助】

#### 1. 評価対象事業

○地域公共交通確保維持改善事業

- ・地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金（稲築桂川線、市内循環線（東回り山田方面））
- ・公有民営方式車両購入費国庫補助金（稲築桂川線）

#### 2. 評価対象年度

令和7年度（令和6年10月1日～令和7年9月30日）

※公有民営方式車両購入費国庫補助金については令和7年度導入車両（稲築桂川線）の1年目（令和7年度）分が対象

#### 3. 事業評価（提出書類から抜粋）

##### (1) 前回の事業評価結果の反映状況（実施事業内容）

- ・通学等の利便性の向上と運行の効率化のため、路線の一部変更や増便を行うとともに、日祝日における短縮ダイヤを導入
- ・広報誌、ホームページ、LINE等を活用した公共交通に関する情報発信
- ・市内在住学生に向けた通学等補助金制度の継続実施による通学での公共交通の利用促進
- ・ノンステップバスの導入による利便性向上（稲築桂川線、市内循環線（東回り山田方面））

##### (2) 目標・効果達成状況

【稲築桂川線】 収支率：目標値 20% ➡ 達成状況 31.1%

【市内循環線（東）】 収支率：目標値 20% ➡ 達成状況 27.3%

# 1 令和7年度地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

## (3) 事業の今後の改善点

- ・ノンステップバスのPRも含めた、現在はバスを利用していない層へのバスの周知、事業の実施。
- ・利便性の向上と運行の効率化を図るとともに、継続した周知活動を行う。

※交通会議の承認を得た後に内容に修正が発生した場合は、事務局で修正をさせていただければと存じます。

令和8年1月 日

九州運輸局長 殿

住所 福岡県嘉麻市岩崎1180番地1  
協議会名 嘉麻市地域公共交通会議  
代表者名 会長 神代 昭彦

地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価の提出について

令和7年度地域公共交通確保維持改善事業に伴う事業評価を行いましたので、別添のとおり報告します。

担当部署：嘉麻市交通政策課交通政策係  
担当者名：村上 里美  
連絡先：0948-42-7404  
E-mail：kotsu@city.kama.lg.jp

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月 日

協議会名: 嘉麻市地域公共交通会議

評価対象事業名: R7年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金、公有民営方式車両購入費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
嘉穂観光 有限会社	(1)稲築桂川線 (市役所・稲築病院経由)	<p>更なる利便性の向上、すべての利用者が利用しやすい公共交通を提供するため、市内循環線同様にノンステップバスを導入しました。</p> <p>ダイヤについては、通学等の利便性を向上させるため、路線の一部変更や増便を行うとともに、日祝日における短縮ダイヤを導入し、運行の効率化を図りました。</p> <p>また、今年度も前回から引き続き、バスの利便性向上を図ると共に、バスが走っていること、利用できることを周知するため、広報誌や市ホームページでのPRと、市内在住の学生に向けた通学定期券の補助を継続して実施し、通学での公共交通の利用を呼びかけを行いました。</p>	A 事業を計画に位置付けられたとおり、適切に実施した。	<p>事業が計画に位置付けられた目標を達成した。</p> <p>A</p> <p>目標値: 収支率20% 達成状況: 収支率31.1%</p>	<p>適宜利用者からの要望や意見を精査し、ダイヤや路線の見直し、検討を実施してきました。今回も、目標としていた収支率20%以上の維持を達成しています。</p> <p>今後も利便性の向上と運行の効率化、わかりやすいバスを目指し、ノンステップバスのPRや継続した周知活動を実施してバスを利用していない層にも視野を向け、事業等を実施予定です。</p>
	(2)稲築桂川線 (東岩崎・嘉穂総合高校経由) ※R6.10.1～R7.3.31まで運行 R7.4.1以降は(2)(3)を(4)に統合		A 事業を計画に位置付けられたとおり、適切に実施した。		
	(3)稲築桂川線 (なつしが丘・嘉麻市役所・稲築病院経由) ※R6.10.1～R7.3.31まで運行		A 事業を計画に位置付けられたとおり、適切に実施した。		
	(4)稲築桂川線 (なつしが丘・嘉麻市役所・稲築病院経由)※R7.4.1路線延長 R7.4.1以降は(2)(3)を(4)に統合		A 事業を計画に位置付けられたとおり、適切に実施した。		
	(6)稲築桂川線 (嘉麻市役所・嘉穂総合高校経由) ※R7.4.1路線延長 R7.4.1以降(5)を延長		A 事業を計画に位置付けられたとおり、適切に実施した。		
	(7)稲築桂川線 (なつしが丘・市役所経由)		A 事業を計画に位置付けられたとおり、適切に実施した。		
	(8)稲築桂川線 (山野社宅～稲築病院) ※R6.10.1～R7.3.31まで運行 R7.4.1以降は(8)を(9)に統合		A 事業を計画に位置付けられたとおり、適切に実施した。		
	(9)稲築桂川線 (山野社宅～なつきの湯) ※R7.4.1路線延長 R7.4.1以降(8)を延長		A 事業を計画に位置付けられたとおり、適切に実施した。		
	(10)市内循環線東回り山田方面 ※R7.4.1以降運行分		A 事業を計画に位置付けられたとおり、適切に実施した。		
	(12)市内循環線東回り山田方面 (稲築病院～生涯学習館) ※R7.4.1路線延長 R7.4.1以降(11)を延長		A 事業を計画に位置付けられたとおり、適切に実施した。		
株式会社 ひまわり観光	(10)市内循環線東回り山田方面 ※R6.10.1～R7.3.31まで運行	<p>すでに導入済みのノンステップバスでの運行を行い、稲築桂川線と同様に通学等の利便性を向上させるため、路線の一部変更や増便、日祝日における短縮ダイヤを導入し、運行の効率化を図るとともに、広報誌や市ホームページでのPRと、市内在住の学生に向けた通学定期券の補助を継続して実施し、通学での公共交通の利用を呼びかけを行いました。</p>	A 事業を計画に位置付けられたとおり、適切に実施した。	<p>事業が計画に位置付けられた目標を達成した。</p> <p>A</p> <p>目標値: 収支率20% 達成状況: 収支率27.3%</p>	<p>適宜利用者からの要望や意見を精査し、ダイヤや路線の見直し、検討を実施してきました。今回も、目標としていた収支率20%以上の維持を達成しています。</p> <p>今後も運行の効率化を図るとともに、継続した周知活動及びノンステップバスのPRを実施し、バスを利用していない層にも視野を向け、事業等を実施予定です。</p>
	(11)市内循環線東回り山田方面 (稲築病院～生涯学習館) ※R6.10.1～R7.3.31まで運行 R7.4.1以降は(11)を(12)に統合		A 事業を計画に位置付けられたとおり、適切に実施した。		
	(13)市内循環線東回り山田方面 (嘉麻市役所～総合バスステーション) ※R6.10.1～R7.3.31まで運行 R7.4.1以降は(13)を(14)に統合		A 事業を計画に位置付けられたとおり、適切に実施した。		

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月 日

協議会名：	嘉麻市地域公共交通会議
評価対象事業名：	R7年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金(公有民営方式車両購入費国庫補助金)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>嘉麻市は福岡県のほぼ中央に位置し、面積は135.11km<sup>2</sup>、人口は33,346人(令和7年12月末時点)となっており、近年では高齢化率が41.8%と人口減少と高齢化が進展しています。</p> <p>本市においては、令和5年に嘉麻市地域公共交通計画を策定しており、計画に定める実施事業において、利便性の高い公共交通、市内外を結ぶ公共通路線の確保等を掲げています。</p> <p>市内、稲築地区についてはJR後藤寺線の下鴨生駅が立地し、飯塚市及び田川市方面へのアクセス性を有するが、福岡市や北九州方面等の広域的なアクセスにおいては、隣接する桂川町に立地するJR福北ゆたか線の桂川駅への住民の移動ニーズが高くなっています。さらに稲築地区と桂川駅を繋ぐ沿線には、稲築志耕館高校、嘉穂総合高校の2つの高校が立地し、市内から嘉穂総合高校、市外から稲築志耕館高校の双方のアクセス性の確保が求められています。</p> <p>また、稲築地区には市役所本庁舎があり、市内外からの移動ニーズが高まっています。併せて、山田地区ではスーパー等の商店が1店舗のみとなっており、山田地区から稲築地区に立地しているスーパーやホームセンター等商業施設への移動にもニーズがあります。</p> <p>このため、地域間幹線系統と接続するフィーダー系統を組み合わせ稲築地区と桂川駅を繋ぐ稲築桂川線、山田地区と稲築地区を繋ぐ市内循環線(東回り 山田方面)を確保、維持することで、生活交通ネットワークの構築を進めています。</p>